

## 第67回目のGIS News!です



田麦俣 田麦川橋にて  
(撮影：齋藤正志 2003.10.17)

周囲の田んぼでは稲刈りも終わり、朝晩はストーブが恋しい、そんな肌寒さを感じる今日この頃です。先日、10日間に渡って県内各地で催された「第18回国民文化祭・やまがた2003」も閉幕し、県内は静けさを取り戻しつつあるといったところですが、県内の様々な文化を全国にPRしつつ県民が文化を再認識した、そんな国文祭でした。地方の伝統の文化を継承するにもGISを利活用していきたい、そんな風に思います。

## 「ジオコーディングって…?」

私たちは日常生活の中において地図以外で位置を特定することに「住所」という文字情報を活用しています。タイトルに示した「ジオコーディング」とは、住所の文字情報を解析し、自動的に緯度経度を付与し、地図上にプロットすることを意味します。自動解析により判明した位置座標(経緯度やXY)データを地図上にプロットすることで、地理的な分布状況を視覚的にとらえる事が可能になるほか、様々な統計データを組み合わせることにより、文字の羅列からは到底読取ることができない実態まで明らかになる可能性を持っています。

ジオコーディングには、向き不向きがあります。それは、住居表示に大きく係わります。幾何学的に文字情報から位置を解析するには、規則正しい住居表示でなくてはなりません。

アメリカの場合は、通り毎の番地設定に規則性があり、計算を基に位置を割り出すことが容易です。しかし、日本の住居表示はある程度の規則性はあるもののランダムであり、住所といった文字情報から位置を計算で割り出すことは極めて困難です。よって、住所からX,Y座標を割り出すのではなく、あらかじめ各住所に対応したX,Y座標の表を用意して行うことになると思います。例えば、住宅地図のように1軒1軒の住所が地図とリンクしているデータがあれば、住所データベースに登録されている文字情報「住所」と、ポイントしたいデータベースの文字情報「住所」を照合させ、一致した場合プロットするという方法を取れば可能になります。

ただ、今後活発化する市町村合併にともなう住所変更等が頻発した場合、住所に対する位置座標の更新に膨大な労力が必要となります。このジオコーディングを日本において実践するには、なかなか難しい面が多いのが現状と言えます。

## 次回のGIS News!

今回は2003年11月4日発行予定です。よろしくおつき合い下さい!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 石山 明彦 発行日：2003年10月20日